

# Crescendo

M E D I K I T A R T S C E N T E R くれっしえんど

Vol.115



オルフェイ・ドレンガー(スウェーデン王立男声合唱団)

## オルフェイ・ドレンガー(スウェーデン王立男声合唱団)

### えんげき・とれたて新鮮市

シリーズ〈大人のためのコンサート～なるほどクラシック講座〉

### Vol.3「バロック入門～バッハとテレマンの時代～」



非・売れ線系ビーナス「そう遠くない」(2013年)



バロック入門～バッハとテレマンの時代

メディキット 県民文化センター

公益財団法人 宮崎県立芸術劇場

## 合唱の思い出と オルフェイ・ドレンガー

宮崎に来て「いい声してますね。歌がお上手でしょう」と何度か言われて、その度に「いえいえ、根っからの音痴です」と答えながら、内心では若い頃の苦い経験を思い出しています。

鹿児島ラサール高校での3年間、私はグリークラブでコンクールが近づくと練習にかり出されるというおかしな団員でした。一番低いパートのバスの一員でしたが、自分は向いていないとわかりつつ、熱心な指導の先生に声をかけられ断り切れずに続けていたというのが正直なところ。3年生の冬、クリスマスにカトリックの女子高校との合同合唱祭というのがあり、何故か私にソロをやれという話になりました。何度も辞退したのですが聞き入れてもらえず、受験を控えた時期に下宿の部屋で、グレゴリオ聖歌のキリエという曲を必死に練習したことを憶えています。

結果は惨憺たるものでした。鹿児島市内のコンサートホールの満員のお客さんを見ただけで緊張し、同世代の女子高生たちに恥ずかしいところを見せられないと力が入り…わずか数フレーズのソロの途中で音がはずれてしまいました。指揮をする先生の唾然とした顔と頑張れと励ましているような目つきが懐かしく、かつ恥ずかしく思い出されます。

以来、コーラスに誘われてもお断りするばかりですが、コンサートで合唱を聴くのは今も大好きです。今年の音楽祭、オペラ「カルメン」を見事に彩った高校生たちの合唱は圧巻でした。そしてこの秋のオルフェイ・ドレンガーの公演をとても楽しみにしています。

創立が1853年、日本では幕末のペリー来航の年です。150年を超える歴史を持つ世界最高峰の男声合唱団は、9年前の2005年に芸術劇場で公演しています。県外の合唱団の方達がたくさん聴きに來られたようで、オルフェイ・ドレンガーの合唱を「まるで人間シンセサイザーだ」「人間の声に勝る楽器はない」といった表現で讃える感想コメントが劇場の記録に残っています。

前回大好評だった「ムオアイヨウム」という歌詞のない曲が今回も演奏されるそうです。「スウェーデンのオーロラを想像しながら目を閉じてお聴きください」というこの曲がアイザックスターンホールに響きわたる時、私は自分の苦いトラウマ体験を忘れ、かつて見た北欧のオーロラを思い出し、男声合唱の粋を心ゆくまで味わうだろう…と期待しています。

公益財団法人宮崎県立芸術劇場理事長 佐藤寿美

## オルフェイ・ドレンガー (スウェーデン王立男声合唱団)

世界最高の男声合唱団オルフェイ・ドレンガー(スウェーデン王立男声合唱団)が、9年ぶりに10月24日(金)宮崎で歌声を披露します。



創設155年にして初の女性指揮者、セシリア・リュディンゲール・アーリン スペシャルインタビュー

SPECIAL INTERVIEW

### — オルフェイ・ドレンガーの特徴や魅力は何でしょうか？

長い歴史(1853年設立)を持ちながら、レパートリーの幅を広げたり、面白いコラボレーションを見つけるなど、絶えず将来への熱意と野心を持っている若さ溢れる合唱団です。音楽をトップレベルに持っていき希望と意志を持っているメンバーと一緒に音楽を作っていくのは、とても感動的です。オルフェイ・ドレンガーの響かせるサウンドは大変特徴的です。世界でもこのような深みを持ち、温かく、溶けあった音の質を持っている合唱団は他にありません。

### — 他ジャンルの音楽家とのコラボレーションにも意欲的に取り組まれています。今回コラボレーションするマグナス・リンドグレン氏はどんな方ですか？

マグナス・リンドグレンは間違いなく世界的な音楽家であり、常に世界ツアーをしています。彼の音楽の表現はとてもユニークです。何の無理も制限もなく、フルート奏者、クラリネット奏者、サクソフォン奏者、作曲家、編曲者などに切り替えられる大変に多才な音楽家です。また、とても謙虚であり、コラボレーションがしやすいのです。彼自身、オルフェイ・ドレンガーと音楽を作っていくことや、合唱団の音自体がとても好きだそうです。



オルフェイ・ドレンガー(スウェーデン王立男声合唱団)



世界最高の男声合唱団をまとめあげる“紅一点”の指揮者

## 音楽をトップレベルに持っていき 希望と意志を持っているメンバーと一緒に 音楽を作っていくのは、とても感動的です。

### — 今回のコンサートの聴きどころを教えてください。

たくさんあります。オルフェイ・ドレンガーがア・カペラで歌う作品の1つに、母音を基にした「ムオアイヨウム」という曲があります。この曲は、世界的に評価されているスウェーデンの作曲家ヒルボレイが作曲しました。彼のオーケストラ曲はベルリン・フィル、ロサンジェルス・フィル、ニューヨーク・フィルのような世界の第一級のオーケストラによって演奏されています。この曲において、合唱のサウンドはほとんど巨大なオルガンや、音楽と化した北欧の白夜のように聞こえます。また、ビーブルの美しきロマンチックな「アヴェ・マリア」や、スホニユによるスロヴァキアの名曲を演奏します。

ピアノ伴奏の曲では、ブリテンの傑作「小姓マズグレイヴのバラッド」やシューベルトの素晴らしい作品「飼い主わが主よ」を歌います。リンドグレンが作曲した"Man'yoshu tones" (英語の翻訳つき)の日本での世界初演も大変楽しみです。また、お客様には「サプライズ・コーナー」も楽しみにして頂ければと思います。

### — コンサートを心待ちしている皆さんへメッセージをお願いします。

オルフェイ・ドレンガーのレパートリーの幅広さや響き、音楽を作っていくさま、そして一流のソリストであるマグナス・リンドグレンの演奏に驚いていただくなど…思いがけない体験をぜひご期待ください。

セシリア・リュディンゲール・アーリン(指揮)



### オルフェイ・ドレンガー (スウェーデン王立男声合唱団)

ORPHEI DRÄNGAR, Male-Voice Choir

1853年ストックホルムのコレラ蔓延によって孤立化したウブサラの町で、士気発揚のためにウブサラ大学の合唱愛好者たちが集まって、ベルマンの「Hor i Orpheus Dranger」を歌ったのが始まりである。1951年から91年までエリック・エリクソンが指揮者を務め、この間に合唱団は大きな成長を遂げた。1970年には米国ツアーを成功させ、これを契機に中欧、西欧、東アジア、北米、中米にツアーを行い、各地で喝采を浴びた。1993年ノーベル賞授賞式参加、1996年スウェーデン国王グスタフ16世の50歳の誕生日を祝っての御前演奏などの活動も行う。また、2008年よりセシリア・リュディンゲール・アーリンが音楽監督に就任。レパートリーはさらに幅広くなった。オルフェイ・ドレンガーはスウェーデンや国外の作曲家に、定期的に新しい楽曲を委嘱し、現代最高の合唱団の一つとして男声合唱音楽の発展にも貢献している。

#### 公演情報

### オルフェイ・ドレンガー (スウェーデン王立男声合唱団)

10月24日(金) 開場18:30 開演19:00

【出演者】オルフェイ・ドレンガー(男声合唱)  
セシリア・リュディンゲール・アーリン(指揮)  
フォルケ・アーリン(ピアノ)  
マグナス・リンドグレン(フルート・クラリネット・サクソフォン)

【曲 目】ベルマン(アルヴェーン編): OD賛歌  
ヒルボレイ: ムオアイヨウム  
ビーブル: アヴェ・マリア ほか

【会 場】アイザックスターンホール

【入場料】全席指定  
S席4,100円 [会員3,700円]  
A席3,100円 [会員2,800円]  
B席2,100円 [会員1,900円]  
学割(小学生~大学生)1,000円 ※B席のみ

※共催: 宮崎日日新聞(宮崎日日新聞プレ創刊75周年記念事業)

3年目となる大人のためのクラシック入門コンサート！  
「なるほどクラシック講座」、通称“なるクラ”！  
今回は原点回帰で「バロック」に焦点を当てて、  
vol.3「バロック入門～バッハとテレマンの時代～」をお届けします。



桐原直子

Naoko Kirihara

×

Naoya Otsuka

大塚直哉



公演に先がけ、本公演の企画・監修を務める当劇場音楽事業アドバイザーの桐原直子氏と、今回事業の垣根を越えて共演するオルガン事業アドバイザー、大塚直哉氏との対談が実現しました！

**桐原:**バロック音楽の普及にも力を注いでいる大塚先生に、いろいろとお話を伺いたいと思いますが、一般の方に「バロックって何?」と聞かれたらどう説明されていますか?

**大塚:**もともと「バロック」という言葉は、丸いつやつやした真珠ではなく、ちょっとゆがんでいる真珠のことだといわれているんです。最初は明らかに否定的な意味だったと思います。「バランスをはみ出した」というような感じでしょうか。例えば、重い音符と軽い音符やフォルテとピアノのコントラストが強かったり、ダイナミックであったり、芝居がかっていたり、といったように、表現のためであればあえてバランスも崩す、この時代の音楽の特徴をよく表している言葉です。考えてみたら、バロック音楽が表現しようとした「人間の心の動き」というのは、バランスのとれた面ばかりではないですね。

**桐原:**17世紀～18世紀半ばまでをバロック時代と呼びますが、日本でいえば江戸時代の前半に当たりますよね。余談ですけど、バッハの生誕年(1685年)の前年に、徳川吉宗が生まれているので、暴れん坊将軍の時代がバロック時代と思ってもらえるといいかもしれませんね。

**大塚:**ちょうど日本でも歌舞伎や浄瑠璃が始まったころですし、箏や三味線が発達してくる時代なので、ちょっと同じような時代で面白いですね。

**桐原:**中世は怪しげなものに対して「信じる」という風潮がありましたから、明るい時代になってきたといえるかもしれませんね。今回は「バッハとテレマンの時代」と題してお

送りしますが、バッハが音楽の祖といわれている所以についてお話していただけますか?

**大塚:**小学生の頃、音楽室の一番左からバッハが音楽の父で、次にヘンデルが音楽の母と習いましたが、男なのに母なんだ…と思ったのを覚えていますね(笑)。バッハは自分の生まれ故郷をほとんど離れなかったのに、貪欲に遠い国の音楽を研究したと言われています。例えばすごく古い作曲の技法を取り入れるし、最新のイタリアのコンチェルトや、フランスの流行の宮廷舞曲という風に、彼は独自のやり方でそれらを混ぜてレベルの高い音楽を書くわけです。おそらくバッハの後の世代の音楽家にとっては、バッハを通すとそれまでの音楽のエッセンスをみんな吸収できるというようなシンボリック的存在だったのではと思います。とくに、古典期のモーツァルトやベートーヴェンがそういう態度でバッハの作品から学び、そしてメンデルスゾーンも、シューマンもブラームスもそれに倣ったという歴史の流れが、バッハを1つの始まりと位置づけることにつながったのではと思います。

**桐原:**今回は宮崎の素晴らしい若手演奏家に加え、東京からヴィオラ・ダ・ガンバの名演奏家、福沢宏さんにも出演していただきますが、何か新しい宮崎ならではのコンサートができればいいなと思っています。今では古楽の演奏会も多くなって、古楽器(当時使われていた楽器)じゃないとダメみたいなイメージもありますが、モダン楽器(現代の楽器)でバロックを演奏することについてどう思われますか?

**大塚:**自分が学生の時は、モダン楽器でのバッハはダメという雰囲気がありましたね。でも今になってみると、使う楽器はどちらでもいいと思います。むしろ楽器が変わることで、アプローチも変わるので、そのアプローチの違いを知っているかどうか大きいと思います。古楽器は音量が大きい楽器ではないので、色合いの変化を求めます。例えば、ソリストを目指すモダンのフルート奏者が必死で音量とスピードを追い求めるのに対し、フラウト・トラヴェルソ奏者は音色(おんしょく)やニュアンスの豊かさを求めます。「こういう弾き方もあるんだ。こんな風に音楽と向い合うほうがよりバッハに近づける」と気持ちが開いていけるのであれば、楽器はモダンでも古楽器であっても変わらないんじゃないですかね。

**桐原:**コンサートでは、皆さんの知的好奇心を誘うお話を交えながら、いろいろな国の音楽をご紹介していきたいと思っています。ぜひ“想像の翼を広げながら”音楽を聴いていただけたら嬉しいです。その時の音楽を聴くことで、その時代を知ることでもありますし。

**大塚:**バロック音楽を聴いたことのない方にとっては、堅くて難しい音楽かな?というイメージがあるかもしれません。でも実際のところ、バッハとテレマンの時代の器楽というのは、楽器と楽器の親密なやりとりが大事にされていて、とくに今回の編成のような室内楽の世界では、重厚であったり深刻であったりすることよりも、上質な対話のうちになかを共有することに重きが置かれています。ですからおそらく初めて聴かれても楽しんでいただけるのではと思いますよ。

[1] 古典派音楽よりも古い時代の西洋音楽で、中世(10-14世紀前半)、ルネサンス(14-16世紀後半)、バロック時代(16世紀後半-18世紀中ごろ)の音楽の総称

公演情報 シリーズ(大人のためのコンサート～なるほどクラシック講座)

vol.3「バロック入門～バッハとテレマンの時代～」

10月2日(木)

■ランチタイム・コンサート～気軽に楽しむお昼の60分～

開場 11:00 開演 11:30(60分公演・休憩なし)

全席自由 一般 1,000円 [会員800円]

■ソフレ・コンサート～じっくり楽しむ夜の100分～

開場 18:30 開演 19:00(100分公演・休憩あり)

全席自由 一般 2,100円 [会員1,900円]

学割(小学生～大学生)1,000円

【出演者】大塚直哉(チェンバロ) 福沢宏(ヴィオラ・ダ・ガンバ)  
戸高美穂(フルート/フラウト・トラヴェルソ)  
日高慧(オーボエ) 日高慶子(ヴァイオリン)  
桐原直子(フルート/ご案内)

【曲 目】テレマン:ターフェル・ムジーク第1集よりト長調  
J.S.バッハ:トリオ・ソナタ長調 BWV1038  
マルチェロ:オーボエ協奏曲より ほか

【会 場】イベントホール

●都城公演 ソフレ・コンサート～じっくり楽しむ夜の100分～  
10月3日(金) 開演19:00  
会場: 都市ウエルネス交流プラザ ムジカホール

## 古楽器の紹介

コンサートに登場する古楽器って、どんな楽器!?  
出演者のお2人に、教えていただきました。



ヴィオラ・ダ・ガンバ



福沢宏

ヴィオラ・ダ・ガンバはその形からチェロの親戚のように見えますが、この楽器の由来は15,16世紀のスペインで流行したビウエラと呼ばれる、今日のギターに似た楽器ではないかと言われています。スペイン、イタリア地方で生まれたこの楽器は、その後イギリス、フランス、ドイツへと伝わり、それぞれの国で独自の発展を遂げました。「ガンバ」とはイタリア語で“脚”という意味で、バス、テナー、トレブルといった大中小様々なガンバは、その大きさに限らず膝の上、あるいは脚の間に挟んで演奏されます。奏法的にはチェロやヴァイオリンとは異なり、胡弓のように弓を下手に持って演奏します。

そしてこの楽器の最も大きな特徴は、指板に巻かれたフレットと羊の腸で作られたガット弦から生まれる、透明で柔らかい音色ではないでしょうか。



フラウト・トラヴェルソ



戸高美穂

「トラヴェルソ」とは、“横向き”という意味で、16世紀頃、フルート(フルート)といえば縦型のリコーダー(フルート・ドルチェ)が主流であったため、これと区別し、「フラウト・トラヴェルソ」と呼ばれました。現代のモダン・フルートのように金属製ではなく、柘植(つげ)や黒檀(こくたん)などの木製で作られており、象牙も用いられていました。構造は極めてシンプルで、典型的なトラヴェルソにはトーンホールと呼ばれる7つの穴と右手小指部分に一つだけキーが付いており、指で直接穴をふさいで音を出します。モダン・フルートより歌口もトーンホールの穴も小さく、先に向かって細くなる円錐形になっているため、小さな音量しか出せず音程も不安定ですが、温かみのある多様な音色と繊細で豊かな表現を可能にしています。

宮崎の若い演劇人  
× 全国で活躍する  
新進気鋭の演劇人  
がそれぞれの作品  
を一挙上演!



# いよいよはじまる 演劇フェスティバル! えんげき・とれたて新鮮市

## 大人の皆さんへ

「俺が責任はとるから好きにやってみろ」と言ってくれる何人かの大人と出会ってきました。わたしが20代の頃です。本当に幸福なことだったと、47歳になった今、あらためて感じています。「自己責任」という言葉が日常化し、誰もが責任の押し付け合いに汲々としている現代だからこそ、劇場が、若者たちの成長と失敗を大らかに引き受ける場になればと思っています。どうか、みなさん、若者たちのこのお祭りをぜひ応援しに来てください。

演劇ディレクター 永山智行

## 非・売れ線系ピーナス 『そう遠くない』

### 距離を縮める、九州・沖縄4都市ツアー

2011年11月、沖縄の基地問題をテーマに「そう遠くない」という作品を福岡で上演しました。現実には起きていることを捉えられないのは、物理的な距離が原因なのか。そんなことを私たち自身が深く考えながら創作しました。

印象的だったのは、終演後のアフタートークにほとんどの観客が残り、アンケートにコメントを書いていただけたこと。九州・沖縄とひとくりにされるはずの福岡ですら、沖縄との距離があるということを実感しました。

九州ツアーを決意したのは、それからです。もしかすると、観客の反応も地域によって違うのではないのか。そこを突き詰めれば、今回のテーマである「距離」についても、より捉えられるのではないかと考え、ツアー実施を決意しました。「福岡という地方で創作した、日本の話」大きく言えばそれだけの演劇を、まずは九州の人としゃべりたい(もちろん、今後は日本全国へ!)。そして、考えるきっかけを作りたい。

実施にあたっては、NPO法人アートマネジメントセンターとの共同主催とし、平成26年度芸術文化振興基金をいただき、宮崎県立芸術劇場では「平成26年度えんげき・とれたて新鮮市」の演目のひとつとして、計4カ所(宮崎・熊本・長崎・沖縄)のツアーが決定いたしました。

沖縄を最終目的地とし、合計4カ所を巡り、他地域でもアフタートークを開催することで、観客との交流をはかるとともに、地域で演劇創作をするということの違いや共通点にも触れたいと思います。日本をどうにかしたい、とか、そういうことではなくて、演劇には、目に見えない事実を見つめる力があることを確かめるツアーにしたいです。

#### 非・売れ線系ピーナス

脚本家、田坂哲郎の戯曲を上演するための団体として2003年設立。福岡を拠点に活動。民話をもとにしたファンタジー色の強い作品から社会問題を取り扱った作品まで、ジャンルにとらわれない作品作りで、幅広い年齢層に支持を得ている。



非・売れ線系ピーナス『そう遠くない』(2013)

#### Message

### 宮崎公演に向けて

今年冬、演劇・時空の旅「シラノ・ド・ベルジュラック」に出演させていただき、1か月間宮崎に滞在しました。晴れの日が多く、食べ物が美味しい、そんな宮崎ライフを満喫した私は、次は劇団員も連れて行こう!と誓ったのでした。夢が叶いました。



非・売れ線系ピーナス代表  
田坂哲郎

「そう遠くない」という作品は、はじめから、いろんな場所で公演したいと思って作りしました。沖縄の基地問題を下敷きにはしていますが、距離と人の問題はどの場所にもどの人にもあるものだと思います。住んでいる場所が違う、ということが互いに憎みあう理由になったりするものです。もっとこわいのは、無関心になることです。でも、他人に関心ありすぎる人もちょっとイビツな感じがします。このバランス難しい!でも、この難しさから逃げずに挑み続けることが、人生なのではないかと思ったりします。

宮崎から福岡はどんな風に見えるのかしら、そんなことも聞いてみたい。劇場は出会いの場だといえます。たくさんのお客様と出会えることを楽しみにしております。

## 20min.theatre

## 『深夜柰』

### みやざき演劇若手の会

「20分の短編」、「深夜」のシーンを入れる」、「柰」をイメージした共通の舞台セットを用いる」というルールのもと、宮崎の若手演劇団体が作品を上演します。



昨年「えんげきとれたて新鮮市」に出演した、宮崎の若手演劇人

初めて演劇を見たのは18歳の頃です。

9年前、東京は渋谷、シアター・コクーンにて。大人計画「キレイ」でした。演劇の「え」の字も知らない一人の田舎者にはあまりに衝撃が強く、舞台上のあふれんばかりの自由とエネルギーへの憧れは今も残っています。僕の演劇に対する価値観はあの時に決まったのかもしれませんが。

今年のタイトルは「深夜柰」。このタイトルにはTVの深夜番組のように、他の番組(他局だけでなく自局の番組間でも)では見たことのない新しさや面白さといった差異、とともに演劇が持つ独自の自由さやエネルギーを持つ作品を各団体の皆さんに作り出してもらいたいという意図が込められています。

きっとこれまで生み出されてきた多くの「芸術作品」というものは、それまで育てられてきたものを尊重しながら、それとは違う新しく面白いものを模索し続けてここまで来たのだと思っています。そしてこれからもそうして続いていくはずですよ。

今回の3団体の作品を見た方には、9年前に僕が憧れた時のような心の躍動を感じてもらえれば、と思います。そして演劇に興味を持つ方が増えていけば、色んな価値観を持った演劇人が増えていけば、宮崎の演劇はもっと発展していく。その為の礎の一つとしてこの20min.theatreが役立てばと思っています。



みやざき演劇若手の会代表  
片山敦郎

## 演出の3人に、今回の作品でやりたいこと、チャレンジしたいことを聞いてみました!

### 劇団歩く窓

伊藤海 いたうかい

#### ■ 新事記

男と女の話。イザナギ・イザナミまでさかのぼっても、今とあんまりかわり映えないよなっていうような。ひとがうやむやのままに生きる、日本を背景に。ほんともう、手垢まみれのテーマなんですけど。ある程度トピックは更新して、っていうことで「新」事記です。作品はともかく、そこをダシに、役者たちの持つみずみずしさを損なわず表現したいです。酸いも甘いも、とりあえず飲み込んでやります。



### 演劇創作ユニット 箱庭

武田真依 たけだまい

#### ■ アレシボ・メッセージ

やりたいこと…というより“人を大切に想う”ことに気をつけたいなと思っています。当たり前のことだけど、最近になってようやく、誰かに支えられながら生きてきたんだって、ちゃんと気付きました。今までずっと、心ここに在らずな異星人でした。でもやっと人間になれそうだって。“自分”だけじゃなく、人と人の間で生きていく。あ、この物語で私は人間になりたかったのかもしれませんが。



### 劇団新世界

佐藤瑞穂 さとうみずほ

#### ■ AM28

スピーディーな対話劇に挑戦しようと思っています。これまでの私の作品は、いつも雰囲気でごまかすような余白の多い演出が多いので、今回は逃げずに向き合ってみようと思っていますが、どうなるかは分かりません。そして、廃墟や空き店舗など狭すぎる不自由な空間での芝居ばかりやっていたので、広くて自由で、しかもセットの制限つき、という超面白い課題もどうやって楽しんでやろうかと逆立つ尻尾を撫でつけながら妄想しています。



#### 公演情報 えんげき・とれたて新鮮市

### 非・売れ線系ピーナス『そう遠くない』

9月27日(土) 開場16:30 開演17:00

9月28日(日) 開場14:00 開演14:30

【原 作】田坂哲郎

【演 出】木村佳南子

【出演者】柳 暁子 ケニー 遠矢美咲 稲田小百合 ぼち

木村佳南子 田坂哲郎

【会 場】イベントホール

【入場料】全席自由 一般 2,000円 [会員1,800円]

学割(小学生~大学生)1,000円

●2公演セット券 2,500円 ※前売りのみ 2作品を両方ご覧いただけるお得なセット券です

### 20min.theatre『深夜柰』(みやざき演劇若手の会)

9月27日(土) 開場14:00 開演14:30

9月28日(日) 開場16:30 開演17:00

■ 劇団歩く窓『新事記』 【作・演出】伊藤海

■ 演劇創作ユニット 箱庭『アレシボ・メッセージ』

【作】興梠みずも 【演出】武田真依

■ 劇団新世界『AM28』 【作・演出】佐藤瑞穂

【会 場】大練習室2

【入場料】全席自由 一般 1,000円 [会員900円]

高校生以下無料(要予約)



藤木 大地

2012年、日本音楽コンクール第1位。カウンターテナーとして史上初の優勝者となり、話題となった。13年にポロニヤ歌劇場にデビュー。14年にはNHKニューイヤーオペラコンサートに初出演し、さらにはウィーン国立歌劇場と来シーズン(15年)の客演契約を結ぶなど、国際的な活動を展開する現在最も注目を集めるアーティストのひとりである。東京藝術大学卒業。新国立劇場オペラ研修所修了。新国立劇場にテノールとしてデビュー後、ポロニヤ、ウィーンに留学。11年にカウンターテナーへと転向。12年国際ハンス・ガボア・ベルヴェデーレ声楽コンクール世界大会にてハンス・ガボア賞を受賞。宮崎市出身。ウィーン在住。

ぼくがオペラのはじめに初めて触れたのは、中学校のときに音楽の授業で観た世界三大テノールのコンサートのビデオだったと思う。音楽のテストに「三大テノールの名前を書け」という問題があって、一番書きやすかったのは「カレーライス」みたいなカレーラスだった。ドミンゴとパヴァロッティよりね。

高校に通っていたある年のお正月、実家のばあちゃんの部屋のテレビから、三大テノールで聴き慣れた「誰も寝てはならぬ」がきこえてきた。そのNHKニューイヤーオペラコンサートで日本人のプロのオペラ歌手の歌をはじめで聴いた。90年代の宮崎の中高生には、それくらいしかオペラを知る方法がなかった。つまり、それらがオペラのすべてだった。三大テノールのような声が出したい!と思っ、放課後の音楽室で彼らの得意な曲の練習をした。

2013年夏、ぼくはウィーン国立歌劇場のステージにいた。ある役を決めるオーディションに呼ばれていた。1曲目を歌い終わったとき、客席でドミンゴが聴いているのに気づいた。さすがにちょっとびびったけど、どうにか平常心でいつも通りに歌えて、ぼくのいつもどおりの歌をあのだミンゴが聴いてくれたことが嬉しくて興奮して、幸せな気持ち

で家に帰った。その夜、世界の憧れの劇場から客演契約のオファーがメールで届いた。

ことしのお正月には満員御礼のNHKホールのステージに独りで立っていた。NHKニューイヤーオペラコンサートはいつも通り全国に生放送され、音楽人生で一番多くのひとにぼくの歌が届いた日となった。

いまは時代が違う。ほかにもオペラを知る方法はいくらでもある。でも、日本のどこかで年に一度のオペラ紅白歌合戦の放送をたまたま観た誰かが、そこから未来の夢を描くこともあるのかも。あのときのぼくのように。

三大テノールのような声を出したかったぼくの歌を、三大テノールの誰かに聴いてもらえる未来が来るなんて思ってもみなかった。彼らみたいになりたいなんて、ばからしい夢だったかもしれない。でもずっと突っ走っていたら、それにちよつと似た未来に生きることができている。

ぼくは今、もっと練習して世界一うまい歌手になりたいと思っている。ばからしいかもしれない。笑われるかもしれない。でも、なれるかもしれないよね。



## メディキット県民文化センター 自主事業公演チケット情報

(宮崎県立芸術劇場)

10月12日(日) 開場10:30 開演11:00

チケット発売中

アイザックスターンホール

パイプオルガン プロムナード・コンサート vol.144

オルガンdeブランチ

～作曲家シリーズ: J.S.バッハと息子たち～



パイプオルガンの多彩な音色がワンコインで楽しめるコンサート!

出演者: 今井奈緒子(オルガニスト)  
入場料: 全席自由  
小学生以上500円(1名)  
親子チケット500円(小学生とその保護者2人1組)  
※前売りのみ

Attention (ご注意)

- ・記載情報は変更になる場合があります。・学割は、小学生～大学生が対象です。
- ・未就学児の入場はご遠慮ください。
- ・当日券が出る場合は、500円増になります。(学割、オルガンdeブランチを除く)

9月14日(日) 開場13:30 開演14:00

アイザックスターンホール

Premium Select Concert #3

マリンバを聴く～新進気鋭のマリンピスト・塚越慎子～

全席指定 入場料: 一般3,100円(会員2,800円) 学割1,500円

2公演セット券5,200円 ※ドリンク券付き

\*2公演セット券…来年1月25日(日)に開催する、#4「チェロを聴く～巨匠のデュオ」とのセット券

チケット発売中

えんげきとれたて新鮮市

9月27日(土) イベントホール 開演17:00

大練習室2 開演14:30

9月28日(日) イベントホール 開演14:30

大練習室2 開演17:00

イベントホール

非・売れ線系ビーナス『そう遠くない』

全席自由 入場料: 一般2,000円(会員1,800円) 学割1,000円

詳細は5.6P

みやざき演劇若手の会 20min.theatre『深夜梓』

全席自由 入場料: 一般1,000円(会員900円) 高校生以下無料(要予約)

チケット発売中

2作品  
セット券  
2,500円  
※前売りのみ

10月2日(木) イベントホール

開場11:00 開演11:30

開場18:30 開演19:00

シリーズ(大人のためのコンサート～なるほどクラシック講座)

vol.3「バロック入門～バッハとテレマンの時代～」

ランチタイム・コンサート～気軽に楽しむお昼の60分～

全席自由 入場料: 一般1,000円(会員800円)

チケット発売中

詳細は3.4P

10月24日(金) アイザックスターンホール

開場18:30 開演19:00

開場13:15 開演14:00

オルフェイ・ドレンガー(スウェーデン王立男声合唱団)

全席指定 入場料: S席4,100円(会員3,700円) A席3,100円(会員2,800円)

B席2,100円(会員1,900円) 学割1,000円

※B席のみ

チケット発売中

詳細は2P

11月9日(日) アイザックスターンホール

開場13:15 開演14:00

ローマ・サンタ・チェチーリア国立管弦楽団

全席指定 入場料: SS席12,900円(会員11,600円) S席 9,800円(会員8,800円)

A席 7,700円(会員6,900円) B席 5,700円(会員5,100円)

C席 3,100円(会員2,800円) D席 2,000円(会員1,800円)

学割 1,500円 ※C席のみ 高校生会員 1,000円 ※C・D席のみ

チケット発売中